

目次

第1章 論述問題の内容と対策

- 1 地理論述問題を解くときの心構え 6
 2 論述問題のタイプと対策 … 11

第2章 論述問題のタイプ ——主要大学の出題傾向——

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1 資料判読・論理要求型 …… 20 | 4 論文・専門書元ネタ型 …… 43 |
| 2 膨大な資料判読型 …… 29 | 5 図表併用コンパクト論述型 51 |
| 3 長文論述型 …… 35 | 6 テーマ論述・用語説明型 … 62 |

第3章 論述問題のテーマ別対策

- | | |
|------------------|----------------------|
| 1 世界の大地形 …… 70 | 12 エネルギー …… 114 |
| 2 平野の小地形 …… 73 | 13 鉄鋼業 …… 119 |
| 3 新旧地形図の読図 …… 78 | 14 自動車産業の海外進出 …… 123 |
| 4 気候 …… 83 | 15 日本の人口 …… 129 |
| 5 世界の乾燥地 …… 87 | 16 世界の人口 …… 133 |
| 6 植生・土壌 …… 89 | 17 日本の都市問題 …… 139 |
| 7 自然災害 …… 93 | 18 世界の都市問題 …… 146 |
| 8 日本の農業 …… 99 | 19 交通・通信 …… 149 |
| 9 地中海式農業 …… 104 | 20 余暇・観光 …… 152 |
| 10 水産業 …… 106 | 21 国家・民族 …… 154 |
| 11 食料問題 …… 109 | 22 貿易 …… 158 |

第4章 演習問題

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1 地形・地形図 …… 162 | 6 交通・通信・余暇 …… 181 |
| 2 気候・植生・土壌 …… 166 | 7 国家・民族 …… 185 |
| 3 農業・林業 …… 169 | 8 比較地誌 …… 186 |
| 4 エネルギー・工業 …… 171 | 解答 …… 187 |
| 5 人口・都市 …… 177 | |

1 地理論述問題を解くときの心構え

(1) 論述には字数制限がある

一般に論述問題には「〇字以内」「〇行以内」といった解答字数の上限が設けられ、字数制限がない場合も、解答欄の大きさで制約がある。1題あたりの字数は最大でも400字程度で、実際には50～100字程度が多く、30字以下のおよそ論述とは言えないような問題も少なくない。100字の上限が設けられている問題で、自分の答案が50字程度しかなければ、何か重要なポイントを見落としている可能性がある。50字で書ける内容を、形容詞や接続詞などを多用して、水増しして答えても50字分の得点を上回る可能性はほとんどない。また、字数をはるかにオーバーする場合は、必要のないことも答えていると思われる。論述問題では、何が必要で、何が不要かを見極める力が問われているといえる。

(2) 問われていることに答える

論述問題の採点をしていて強く感じることは、問題で要求されていることと、解答している内容のズレである。解答した内容が事実で、重要なことであっても、問題で問われていないことはいくら書いても得点にはならない。「余分なこと」は減点の対象にならなくても、字数制限があるので答えるべき内容が書けなくなり、結果として得点は低くなる。こうしたことは、問題文をきちんと読んでいないか、自分が答えたいこと、知っていることを答えるために、意図的に、あるいは無意識に問題文を勝手に読み替えているためと思われる。問題文をしっかりと読み、要求されていることは何か、題意をおさえることがきわめて重要である。

例題

ベトナムのメコン川下流域にみられる気候の特徴を60字以内で述べよ。

＜不適切な解答＞

陸地と海洋では比熱が異なるために、夏は太平洋側が高気圧に、冬は大陸側が高気圧となり、季節風が吹き降水量の差が大きくなる。

問題で問われている内容は「気候の特徴」であるにも関わらず、いつの間にか(自分で勝手に?)「季節風がなぜ吹くのか」というメカニズムの説明に字数を費やしてしまっている。ベトナムは確かにモンスーンアジアに位置しており、下線部の

2 論述問題のタイプと対策

地理の論述問題に取り組むにあたって、まずは論述問題でどのようなことが問われるのか見てみよう。一口で論述問題といっても設問形式、内容（テーマ）、解答分量などさまざまであるが、設問の形式から地理の論述問題のタイプをみると、次のような項目をあげることができる。実際には、これらの項目のいくつかが複合している場合もある。

論述問題のタイプ

- (1) 語句・事象を説明する
- (2) 成因・因果関係を説明する
- (3) 時代変化を説明する
- (4) 共通点・相違点を比較する
- (5) 図表から関係を読み取る
- (6) 指定語句を使う

(1) 語句・事象を説明する

単純な形式だが、語句や事象を示してその意味や内容、特徴などを説明させるもので、語句の意味がわからなければ、それで終わりといった問題である。

例題 1

ニューヨークではジェントリフィケーションと呼ばれる現象が報告されている。この現象を60字以内で説明せよ。

(埼玉大)

例題1は、都市に関する設問の一部であり、前後の文脈から、想像力をたくましくして字数を埋めることはできるかもしれないが、知識がなければ高得点は望めない。しかし、こうした形式の問題では、問われる用語や事象は旬（しゅん）があり、「ジェントリフィケーション」については例題1と同じ年の和歌山大でもこの用語の意味を説明させる問題が出題された。まずは、用語集（地理に限らず現代用語を扱った事典などを含む）などで、最近よく耳にする語句（とくにカタカナ用

解答例

低賃金労働力や新規市場を求めて西欧諸国からの投資が増えて雇用が生まれ、EU 市場向けの輸出も拡大する。(50字)

チェックリスト

頻出のテーマ論述(理由説明)(1)

- ☐ 大鑽井盆地に自噴井が多い理由
- ☐ ベルー海流(ベンゲラ海流)が沿岸の気候に及ぼす影響
- ☐ 砂漠の成因(ナミブ砂漠、サハラ砂漠、タクラマカン砂漠など)
- ☐ ヨーロッパの冬季の気温が緯度のわりに温暖な理由
- ☐ 熱帯雨林気候が年中多雨である理由
- ☐ 地中海性気候の成因
- ☐ インドの降水型とその理由
- ☐ 日本列島の日本海側が豪雪地帯となる理由
- ☐ ラトソルの地力が低い理由
- ☐ アルプス以北のヨーロッパで内陸水運が盛んな自然的理由
- ☐ 19世紀にヨーロッパの農業が商業化・分化した理由
- ☐ オーストラリアの大鑽井盆地で牧羊が発達した理由
- ☐ ニュージーランドの酪農の国際競争力が高い自然的な理由
- ☐ 日本において米の生産調整が行われるようになった背景
- ☐ ベルーの漁獲高が1970年代前半に大幅に減少した理由
- ☐ 日本の遠洋漁業の漁獲高が1970年代に減少した理由
- ☐ 1960年代のエネルギー革命の理由
- ☐ 1960年代以降の原油価格の変化とその理由
- ☐ 日本の原油輸入における中東依存度が1990年代末以後上昇している理由
- ☐ 火主原炭の現代において揚水式発電所が重要な役割をもつ理由

や輸入資源に頼る臨海立地型の産業から工業の重心が変化していく。鉄鋼業をはじめとする重化学工業は、20世紀末には「オールドエコノミー」といわれ、先進国では衰退産業に位置づけられるようになっていく。この時期の鉄鋼生産は、旧ソ連の崩壊による低迷とアメリカ合衆国の生産低下により日本が世界第1位になるが、需要の低迷に合わせて生産そのものは低迷している。

- 3：21世紀に入ると、BRICs（ブラジル・ロシア・インド・中国）をはじめとする「新興国」の経済発展が本格的に始まる。特に人口最大の中国における経済成長は、オリンピック（2008年）、万博（2010年）の開催もあって鉄鋼の需要を増大させ、世界の鉄鋼生産は再び増産期へと入った。中国でも生産が著しく伸び、現在は世界第1位の粗鋼生産国である。また、所得水準の上昇は自動車の普及を促し、中国だけでなく、インドやブラジル、ロシアなどでの自動車生産の増加とともに、鋼板などの鉄鋼の需要が増加している。

▶ 解答の指針

- 1950年～：戦後復興期＝需要増大
→ソ連（当時）・日本の生産拡大
- 1970年代：石油危機＝経済の停滞→需要低迷
先進国での産業構造の転換
- 21世紀：BRICs（特に中国）の台頭
→中国などでの生産拡大

解答例

1950～73年は、戦後復興による工業化の進展で需要が拡大し、日本や旧ソ連を中心に世界生産は増加した。1973～2000年は、石油危機を契機とした経済の停滞や先進国の産業構造の高度化により需要が低迷し、生産は横ばいとなった。2000年以降は、飛躍的な経済成長で国内消費が増えた中国を中心に、世界全体の生産も増加した。（149字）

問2 鉄鋼の輸出入

- （注）から生産、貿易に注目しよう

統計表の国名判定だが、生産・輸出入ともに上位国が問われているので、覚えていなければ判定は容易である。ある程度の統計データは覚えておきたいが、その場で判断できる思考力も養っておきたい。統計で問われる国・地域には、問われるだ